

「気持ち」を大切に作る労働組合に (近畿地協第10回定期大会)

10月24日(土)、近畿地協第10回定期大会が京都市「ホテル本能寺」で開催され、代議員、役員など36人が参加しました。

岡野議長は「戦争法強行への国民の怒りはますます広がっている。マイナンバー導入は国民にメリットはない。逆に金融機関の取引内容までひも付きになるおそれも増大している。女性が本当に働き続ける社会は、男性の異常な働き方を変えなければならない。地域金融機関の労働者が仕事に誇りを持って働けるよう皆さんの奮闘をお願いしたい」と挨拶しました。

続いて来賓として、政党を代表して日本共産党の倉林参議院議員、地元の労働組合から京都総評・梶川議長、金融労連本部・田畑書記長から、政治・経済・職場の情勢をふまえた激励の挨拶を受けました。



討論では、10人が発言。身近にある非正規労働者への差別や長い間ベアなしの賃金実態、人事諸制度改訂によって労働条件をさらに改悪しようとしている動き、労使で確認してきた「年間4カ月」という臨給水準が復元どころか凶になりつつある実態などが報告されました。

また労働組合として、経営分析を行って要求実現に向けた交渉にとりくんでいるところや、上部団体などの支援を得て懲戒処分問題の解決を実現させた取り組みなども紹介されました。

解雇争議でたたかう武生・大同の仲間からは支援の訴えがなされました。

福井信金との来年2月の合併を控え重要な局面を迎えている武生の仲間には会場カンパが取り組まれ、2万2010円が、岡野議長から林委員長に贈られました。

全議案を満場一致で採択し、新役員を選出した後、車谷副議長の音頭でガンパローを三唱し閉会しました。

大会で選出された新四役は次のとおり(敬称略)

議長	岡野 展子(池田泉州銀行従組)
副議長	福井 悦雄(京都北都信金従組)
副議長	森 廉始(金融ユニオン・きのくに)
副議長	松島 照男(金融ユニオン・大阪)
副議長	車谷 薫(滋賀銀行従組)
事務局長	阿部 正巳(京都北都信金従組)
事務局次長	伊藤 宗孝(金融ユニオン・直属)



不調発見のポイントは？

心の病を発見するうえで最も重要なのは「本来の本人、ふだんの自分と比べて変化が感じられる」ということです。周りの人が心の不調に気付くための大切な点は、頭文字「なやみのみちへ」です。

- 【な】泣き言、グチを言う
- 【や】辞めたい、退職したい
- 【み】ミスやトラブルが多い
- 【の】能率や能力の低下
- 【み】乱れた勤務(遅刻、早退、欠勤)
- 【ち】長時間労働
- 【へ】変化している(ふだんの本人と比較して)

祝電・メッセージをいただいた労組・諸団体

●大阪医労連●大阪自治労連●大阪労連●化学一般関西地本●京商連●建交労関西支部●国公労連大阪地連●自交総連大阪地連●静岡中央銀行従組●JMIU大阪地本●滋賀県労連●生協労連大阪府連●全印総連大阪地連●全大阪消団連●全国一般大阪府本●大正銀行従組●金融労連中国四国地協●通信労組大阪支部●金融労連東京地連●奈労連●日本共産党大阪府委員会●同京都府委員会●南日本銀行従組●りゅうぎんBS労組 以上 24通でした。

ありがとうございました。

大会での発言より

人事制度改訂提案（滋賀従組）

①昇給および昇級日の変更

4月1日実施→7月1日実施

理由) 考課に基づく昇給・昇級は実際の考課が終わってからのしたい

②休日勤務

これまで36協定で休日勤務ができる支店を限定していたのを外したい

休日勤務の事前同意→事前通知(N oと言わせない)

③外務手当(月3千円)の廃止

理由) 全員が外交可能にする

④特命手当(月3千円)の廃止・決裁手当(月1万円)の新設

理由) 55歳役職定年(賃金半分に)後の人に役職定年後も引き続き決裁してもらうため

多数派組合同意後も引き続き交渉した結果、

①ベアについては従来どおり、4月1日実施を確認したため、「同意」

②多数派組合の組合員から従組への依頼があった場合も含めて、休日勤務ができない事情がある時は、当従組との間で個別協議することを確認して「同意」

③「だれでも外交」というのではなく、あらかじめ従組と協議をしたうえで「外交に出る」ことが「やむなし」か否かを判断することを確認

④「65歳までの賃上げ」要求に対する一部回答として、引き続き65歳までの賃金引き上げに向けて協議を行うことを確認

従来、就業規則の変更は併存の両組合に事前に提案されていたが、今回は多数派組合と合意後に提案されたことに抗議するという事になったが、多数派組合妥結後も、少数組合でチェック機能を果たすことは可能であることを改めて示せた。

非正規差別の改善を（金融ユニオン）

三井住友信託銀行は、障害者となり従来の勤務継続が困難になった非正規労働者を雇い止めしました。組合（金融ユニオン）は障害者雇用への転換を求めて交渉継続、主治医・産業医の「配慮すれば内勤事務の勤務可能」との意見をふみにじり「総合的判断」で障害者雇用を拒否。この間の交渉では、障害者雇用を期待させるものであっただけに銀行への強い怒りを覚える。三井住友信託銀行では、正社員に与えられている休職

制度が、非正規労働者にはない。MYJでも年休未消化分の積立制度が正社員にだけ与えられている。

非正規労働者も正規労働者も同じ人間のはず。差別のない社会にしていいため頑張りたい。

仕事にはケジメを（さわやか従組）

メンタル不全で「人事部付」になる人が増え、各職場にも予備軍が存在するという職場実態。組合役員であっても、仕事に振り回されるようになれば組合活動が困難になる。仕事にけじめをつけなければ自分自身がダメになるということに改めて気がついた。

武生の仲間の話聞いて、「一番信じていた仲間」に裏切られたことのつらさを実感した。この「心」「思い」を大切にすることが労働組合として大事だと思う。



新体制の確立めざして奮闘誓う

きのくに分会大会

10月10日、和歌山県有田郡で、金融ユニオンきのくに信金分会の第9回定期大会が開催され、組合員13人が参加しました。今年で定年再雇用が満了となり、長年務めた委員長を退任される辻さんは、「金庫は利益剰余金の積み上げなど経営内容が改善されているのに削減された臨給は一向に復元されていない。新体制のもとで、皆さん力を合わせ、経営者に要求をぶつけていってほしい」とあいさつ。

金融労連本部から参加した田畑書記長は「新入職員試用期間満了解雇やパワハラによる長期休職・解雇、非正規・障害者差別など、弱者への生活・雇用破壊の乱暴な攻撃が生まれている。金融労連の全国の仲間と力を合わせて反撃していこう」と訴えました。

大会では、全ての議案が満場一致で採択され、新役員を選出しました。新三役は次のとおりです（敬称略）

分会長 川口 和洋（新）

副分会長 保関 慶万（新）、池永 敏之（新）

書記長 森 廉始（再）